NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞記事を読み比べてみる

2．学校名

札幌静修高等学校(北海道、私立)

3．実践者名（代表者名）

岡部　泰子

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

現代文　約100人

6．単元（本時の学習課題）名

「メディア・リテラシー」(菅谷明子著、東京書籍「展開現代文」所収)

7．目標（狙い）

新聞記事の比較によるメディアリテラシー教育

8．評価の視点

実際に各社の新聞報道を読み比べてみることで、情報・報道の意義やその特徴について考える姿勢を養えたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「メディア・リテラシー」本文の学習(5時間)の後の補填授業(2時間配当)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)本文の音読を行い、使用されている漢字・語意について調べ、自分のものにする。(2時間)
(2)本文についての解説を行い、新出の言葉がどのような形で使われているのか、筆者の意図がどのような点にあるのかを考える。(3時間)
(3)実際の新聞記事を複数読み比べてみることで、記事の視点の違いやトーンの差異について考える。(1時間)
(4)どの新聞がどのような特徴を持っているかを話し合い、その特徴がどのような効果を生んでいるかを考え、意見交換をする。(1時間)
(指導上の留意点)
・「メディア・リテラシー」など新出の語意をしっかりと把握させ、定着を図る。
・筆者が何を言わんとしているのか、「メディア・リテラシー」という語の真の意味も含めて考えさせる。
・新聞報道を見比べることで、さまざまな視点・観点が世の中には存在するということ、そしてそれらの視点を取捨選択し、自分の意見を形成していくことの意義について学ばせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

複数の新聞を読み比べ、その視点・観点の違いの大きさにびっくりしていた。また使われている表現や言葉の違いがどうして生まれるのか、どのような効果・影響をもたらすのかなど積極的に意見交換を行っていた。

12．成果と課題

新聞を読むという作業が、さまざまな位相で物事を考えたり、理解したりするために大変有効な手段であるということを、生徒たちは初めて身をもって認識したようである。報道そのものについて新聞やテレビなどで接してはいても、その作り手側の視点に立つという経験がなかっただけに、新鮮な驚きを持って授業に参加していたようである。ただ、授業者側の持って行き方を慎重にしなければ生徒に誤った既成概念を与えかねない部分もあり、扱う記事の内容や方法に、より一層の工夫が必要であると思われる。